

科目名	運用エンジニアリング							年度	2024
英語科目名	System operatinon engineering							学期	後期
学科・学年	情報処理科 システム運用コース 1 年次	必／選	必	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員	下川 洋一			教員の実務経験	有	実務経験の職種		システムエンジニア	
【科目の目的】									
ITシステムの円滑な運用に必要な知識と技術を学びます。									
【科目の概要】									
ITシステムの円滑な運用に必要な知識と技術を学びます。									
【到達目標】									
RPAで自動処理を行う知識を習得し、実際にアルゴリズムを作成することができる。利用者の利便性を考慮したプログラミングができる。情報の整理、管理の重要性を理解する。									
【授業の注意点】									
テキスト、ノート、筆記用具、ノートパソコンを必ず持参すること。必ず復習を行うこと。授業時間内に終わらなかった実習課題がある場合は、各自で次の授業までに終わらせておくこと。授業に出席するだけでなく、社会人への移行を前提とした受講マナーで授業に参加すること。特別な理由（路線の運休、法定伝染病など）のない遅刻や欠席は認められない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	簡単な処理として他のソフトウェアをRPAツールで操作できる	RPAと他のソフトウェアとの連携のためのアドインツール等の設定ができる	RPAのインストールができる	RPAの知識がある程度あるが、インストールできない	RPAの知識が不十分				
到達目標 B	RPAツールで表計算ソフトの全体的な操作を複合的に組み合わせて自動化できる	RPAツールで表計算ソフトの全体的な操作を単一にて自動化できる	RPAツールで表計算ソフトの基本操作を単一にて自動化できる	表計算ソフトの操作ができる	表計算ソフトの操作ができない				
到達目標 C	RPAツールで文書ソフトの全体的な操作を複合的に組み合わせて自動化できる	RPAツールで文書作成ソフトの全体的な操作を単一にて自動化できる	RPAツールで文書作成ソフトの基本操作を単一にて自動化できる	文書作成ソフトの操作ができる	文書作成ソフトの操作が不十分である				
到達目標 D	RPAツールでプレゼンテーションソフトの全体的な操作を複合的に組み合わせて自動化できる	RPAツールでプレゼンテーションソフトの全体的な操作を単一にて自動化できる	RPAツールでプレゼンテーションソフトの基本操作を単一にて自動化できる	プレゼンテーションソフトの操作ができる	プレゼンテーションソフトの操作が不十分である				
到達目標 E	RPAツールで作業を自動化し、課題を解決できる	フローから課題を見つけることができる	作業のフローを作成できる	対象となる作業を見つけることができる	対象となる作業を見つけることができない				
【教科書】									
授業毎に資料を配布する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】									

